

委員長 沼野 雄司



今回は長い議論の末に2つの企画を選んだ。この結論に至るまでにはかなりの紆余曲折があり、すんなりと決まったわけではないことを、まずは強調しておきたい。

「一息ごとに一時間、あかいくつをさがして」は、八村義夫作品の打楽器演奏に関しては期待できるものの、メインとなるモノオペラの制作にやや不安が残った。横浜という街の記憶をさまざまな形で呼び起こすというプランはきわめて興味深いのだが、「ハマのメリーさん」のように実在した人物は繊細に扱う必要があるから、このあたりの意図をあらためて企画者に問い合わせながら、最終的な判断を下した。一方で「10 万年前のコントラバス／10 万年後のコントラバス」については、コンセプトがシンプルかつ独創的という意味で評価が高かったのだが、本当にコントラバス一本のみでステージを充実したものになるのかについては議論が分かれる部分もあった。つまりは両者ともに期待と同時に不安を抱えての採択となったわけで、今年度はワークインプログレスがこれまで以上に重要になってくる気がする。

残念ながら選ばれなかった企画にも面白いもの、魅力的なもの、斬新なものがいくつもあった。それらの大半は、ほんの少しだけ音源に魅力が感じられなかったり、ほんの少しだけ説明が足りなかったりしたため採択されなかったのだが、議論の展開次第ではいずれもチャンスがあった。再度の応募を期待している。